

発刊に寄せて

2013年に「女性下部尿路症状診療ガイドライン」が発刊されました。女性下部尿路症状を包括的に捉え、初期診療と専門的診療のアルゴリズムを区別してわかりやすく記述したことが特徴でした。使いやすいだけでなく、個別の疾患に対して要約と詳細な記載がされていたため、疾患の深い理解にも繋がるガイドラインとして好評を博してきました。

女性下部尿路症状に特化した診療ガイドラインは世界で初めてで、ガイドラインのエッセンスは英文論文として広く世界に公開され、日本における診療の標準化に貢献しただけでなく、世界に向けて我が国のスタンスとプレゼンスを示したものと評価されてきました。しかし、この数年の医療の進歩と社会的ニーズは大きく変化し、6年の年月を経て改訂を行い、第2版として出版することとなりました。

超高齢社会を迎え、泌尿器疾患の罹患数の増加とその対策は国民の福祉にとって大きな課題です。特に男女を問わず排尿あるいは蓄尿に関わる症状は最も頻度の高い泌尿器疾患です。患者さんのQOLを損なうので、速やかな解決が必要とされる一方、様々な疾患と関連し、専門的な知識と経験も必要とされます。過活動膀胱診療ガイドライン、夜間頻尿診療ガイドライン、間質性膀胱炎・膀胱痛症候群診療ガイドラインも同様にこれらのニーズに対応した実践的なガイドラインです。

今回、日本排尿機能学会の作成委員会が中心となって、第1版の構成と内容を継承しながらもこの数年の変化に対応し、最新の知見を取り入れつつさらに使いやすいガイドラインが出来上がりました。日本泌尿器科学会を代表して敬意を表すとともにとても心強く感じております。このガイドラインが泌尿器科専門医だけでなく、初期診療に携わる医師、看護師、保健師の方々に広く活用されることを願っております。

最後になりましたが、本ガイドラインの作成にご尽力をいただいた高橋 悟委員長ならびに委員会の皆様に厚く御礼申し上げます。

2019年8月

一般社団法人 日本泌尿器科学会
理事長 大家 基嗣

序

女性下部尿路症状診療ガイドラインは、2013年に日本排尿機能学会から第1版が発刊されましたが、今回6年ぶりに日本排尿機能学会・日本泌尿器科学会から第2版が改訂・発刊されました。男性下部尿路症状・前立腺肥大症診療ガイドラインが2017年に日本泌尿器科学会から発刊されていますが、本ガイドラインは女性下部尿路症状に特化した診療ガイドラインとして作成され、世界に類を見ない貴重な指針となっています。

男性と女性の下部尿路や骨盤底の構造と機能は必ずしも同一ではなく、それぞれ特徴的な病態・症候を呈することが少なくなく、診断や治療選択においても女性特有の要因を勘案することが必要となります。本ガイドラインは女性における下部尿路機能障害のみならず骨盤臓器脱など女性特有の骨盤底機能障害を広く網羅し、多様な患者への対応が求められる日常診療において、的確な臨床判断を支援するものと思います。

本ガイドラインでは第1版を継承し、泌尿器科医、婦人科医、プライマリケア医などの診療連携を念頭において、初期診療と専門診療の2つの連携アルゴリズムが提示されています。また、実践的なCQに加え、疫学、病態、診断、治療に関しても詳細に解説され、最新のエビデンスにもとづく実践的なガイドラインであるばかりでなく、女性下部尿路機能障害を深く理解するのに有用な書となっています。また、この第2版のガイドラインでは、治療ニーズが大きく、下部尿路機能障害とも密接に関連する骨盤臓器脱についても十分な解説が加えられました。

本ガイドラインが、広く下部尿路症状を訴える患者の診療に関わる医師、看護師、保健師などの医療従事者に活用され、適切な女性下部尿路症状の診療の普及に貢献することを心より期待いたします。また、本ガイドラインの作成にあたりご尽力いただきました高橋委員長をはじめ委員の皆様にご心より感謝申し上げます。

2019年8月

一般社団法人 日本排尿機能学会
理事長 後藤 百万